



親にエンディングノートを 書かせてはいけない？



認知度が高まってきたエンディングノート。

高齢の親に書いてほしいと思って子ども世代が手渡しても多くの場合、書いてはくれません。

それには理由があるんです。親に書いてもらいたいと思ったら、どのようにしたらよいのでしょうか。

エンディングノートはなかなか書けない

高齢の親がいるお子さん世代の悩みの一つに、「万に備えて親の状況や気持ちを知るためエンディングノートを渡したのに、書いてくれない」ということがあります。エンディングノートを親に手渡して「書いておいてね」と言ったところで、多くの場合書けないと思ってください。さらさらと書ける人は、人生の達人です。どうしてだと思われませんか。分からなければ、まず子ども世代であるみなさん自身がエンディングノートを書いてみましょう。さらさらと書けますか。資産の一覧を書くページを見て「面倒だな!」と思いませんでしたか。終末期の医療に対する希望はどうでしょうか。そもそも延命措置についてご存じでしょうか。どのような老後を送っていくのか考えあぐねて、筆が止まってしまうことはなかったでしょうか。

「これからの人生、どうしたらよいのだろう」と考えたときに、日頃から考えていたとしてもそれを言語化して書ける人は少ないです。希望はあっても、迷い、悩み、いざ書こうと思っても言葉にならず、頭の中を堂々巡りしてしまうということはないでしょうか。子ども世代がそのような状況ですから、高齢の親であればなおさら決断も遅くなり、エンディングノートを前にしておっくうになってしまうのです。

「書かせる」のではなく 「聞き出す」ことを目的に

そもそもなぜ、子ども世代は親にエンディングノートを書いてもらいたいと思うのでしょうか。預貯金がどれくらいあって、民間の保険は加入しているのかという財産について確認したいのであれば、親ときちんと向き合って聞き出すことをしなければなりません。どのような介護を望んでいるのか、終末期の医療についてどう思っているのか知っておきたいのであれば、「書かせる」ことよりも「聞き出す」ためのヒアリングシートとして、エンディングノートを

使うべきではないかと思えます。

まず自分で書いてみて、何が一番大切だと思ったのかを親に話すといよいでしょう。「終末期医療のところは、自分の考えを家族に伝えておくことは大事だと思ったわ。私は延命措置はしないでほしいと思ってそう書いたけれども、お父さんやお母さんの希望を教えてください。このエンディングノートに書いておけば、何かあったときにお医者さんにも希望を伝えることができるから安心できると思う」といったアプローチで、親の希望をまとめるヒアリングシートとして取り組んでみましょう。親はひとりでは書きあぐねていたことも、子どもからの質問を聞き、考えながら話すことで、頭の中のぼんやりとしていたものがだんだんはつきりしてくるようになります。

さらにおすすめしたいのが、親の希望を付箋に書いてエンディングノートに貼り付ける方法です。考えが変わったらさっとはがして、新しい希望を書けばよいのです。「付箋に書いて貼っておくね。あとから考えが変わったらすぐはがせばいいから、安心して今の気持ちを話して」と聞いてみてはどうでしょうか。親御さんも、少しは気が楽になるかもしれません。

<参考まで>

福井県では、県独自のエンディングノート「つくみ」を作成しています。各市役所、町役場、地域包括支援センターで配布し、県のホームページからもダウンロードができます。県は「将来の心の在り方を決めていく動機づけのツールとして本エンディングノートを活用することで、もしものときのために、あなたが望む医療や介護、大切にしてきたことなどを事前に整理し、残しておくことができます」としています。ぜひ手に取ってみてはいかがでしょうか。



PROFILE



元気が出る
お金の相談所 所長
マネーセラピスト
安田 まゆみさん

シニアのライフプラン、おひとり様の老後マネー、親の介護問題や財産管理、相続など有料相談をメインに、執筆やセミナーなどで情報を発信。実父と舅を看取り、近年実母と姑を見送ったばかり。近著に「そろそろ親とお金の話をしてください」（ポプラ新書）、「もめないための相続前対策」（河出書房新社）がある。